

浅生スポーツセンター 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月9日(水) 9:00~12:20
- 2 場 所 ミクニワールドスタジアム北九州 会議室5
- 3 出席者 (検討会構成員) 植田構成員、内田構成員、河邊構成員、
則松構成員、南構成員
- (事務局) 都市ブランド創造局 スポーツ振興課
スポーツ施設担当課長、施設管理係長、
担当職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明
- 構成員の互選により、座長を選出
- 応募団体(戸畑スポーツコミュニティ共同事業体)より提案概要に関してプレゼンテーション及び質疑応答

(構成員) 浅生スポーツセンターは、比較的街中にある施設であり、災害時の避難場所としても想定されているが、社内での情報共有及び地域住民への周知等、どのように考えているか。

(応募団体) 災害対応について、社内では災害発生次第、警備会社及びJVに連絡が入るようにしており、早急な対応に向けた応援、連絡体制を構築している。また、地域住民との連携については、まちづくり協議会等と協力して避難訓練等も行っている。今後は防災学習についても取り入れていきたい。

(構成員) 長年、管理業務に携わっているが、それを踏まえて、浅生スポーツセンターにはどのような課題があり、どう対処していくのか教えてほしい。

(応募団体) 利用者からの問い合わせが多い点が課題である。当日の開館時間等の問い合わせが主であるため、タイムリーに発信できるように、今後はSNSでの発信を検討している。

また、複合施設であることから複数の大会が重なってしまった場合、駐車場が足りなくなることがある。これについては、周辺の駐車場の案内等も含め、大会の主催者と事前調整をしっかりとっていききたい。

(構成員) 自主事業について、数よりも利用者のニーズに一致したものをを行うとのことだが、どういうものが求められていて、逆にどういうものが受け入れられなかったか、特性のようなものがあれば教えてほしい。

(応募団体) 開館当初、親子向けのスポーツ教室を開催したが集客が上手くいかず、当時のニーズには合致していなかったと感じたことがあった。大人向けと子供向けのイベントを分けて行うことで、人が集まりやすいようにアプローチしている。

(構成員) 今後目指す環境について教えてほしい。

(応募団体) 今のところ、具体的に目指す内容は決まっていないが、利用者のニーズを確認しながら様々なことを実現していきたい。

ハード整備、修繕等を行うときには誰でも利用できるようにユニバーサルデザインを意識している。

(構成員) パッケージ利用の促進について、合宿に関する様々な利便を促進する意欲的な提案があるが、利用者はどの程度増えることを見込んでいるのか。あるいは、地域にどのようなプラスの効果があるのか。

(応募団体) パッケージ利用については、オリエンタルコンサルタンツが他の施設でも行っている。7～9月で80名18件の利用があった。浅生スポーツセンターには宿泊施設はないため、一旦合宿の窓口となり、宿泊施設との調整を行うことで利用促進を考えている。

(構成員) 合宿を行うと施設を一定期間確保する必要があると思うが、合宿以外の利用とのバランスはどのように考えているか。

(応募団体) 専用利用、共用利用ともに時間のルールがあるので、基本的にはその中で調整する。年間の利用調整後に、空いた枠でのマッチングを検討する。

(構成員) SDGsの観点で、具体的にどういう取り組みを行うか、PRできるところがあれば教えてほしい。

(応募団体) 17の項目があり、全てに少しずつ関わることができるとは思っているが、中でも9つの項目において、管理運営の中で貢献出来ると考えている。その中でも「すべての人に健康と福祉を」に関しては、健康増進施設への登録をもって積極的に進めていきたい。次いで、「質の高い教育をみんなに」についても、様々な人が参加できるような教室を開催していく。また、「パートナーシップで目標を達成しよう」について、地域連携を積極的に行って運営管理を進めていきたい。

○ 応募団体（戸畑スポーツコミュニティ共同事業体）退出後に各構成員が採点

○ 応募団体（戸畑スポーツ文化グランドデザイン）より提案概要に関してヒアリング

(構成員) スタッフの雇用について、ルネサンスの既存スタッフで運営するのか、新たに地元雇用を行うのか。

(応募団体) スポーツ指導ができる専門的な知識を持つルネサンスの社員を3名配置する予定である。それ以外のスタッフは地元人材育成として、基本的には継続雇用を前提に、希望者については優先的に採用面接を行う予定である。

(構成員) プールの営業時間を30分拡大するとの提案は、他の施設の利用状況をみて、遅い時間帯の利用者が多いという分析が根底にあるのか。

(応募団体) 現在、プールの営業時間だけが20時までで、それ以外の施設は21時までとなっている。この1時間の差が非常に勿体ないと感じている。例えば、20時までの営業だと仕事終わりに小倉から移動して2時間利用することが難しい。営業時間を拡大することが、市内で働いている方に対して良いアプローチになるのではないかと考えている。

(構成員) 今回の応募において、他社と差別化するポイントがどこか教えてほしい。また、リスク管理についてどう考えているか。

(応募団体) 差別化のポイントとして、スポーツ教室の本数を3倍にする。我々は、スポーツの専門企業であるため、現在、当施設で行われる教室は非常に選択肢が少なく感じる。また、自主事業に関しては、委託して行われているようだが、内製化できる部分もあり、委託とのバランスをとりながら選択肢を増やし、我々のノウハウを活かしていけるところは差別化につながると考える。

リスクについては、利用料金制度ではないため、使用料収入が全て市の収入になる。リスクヘッジとしては、事業収入の43%を指定管理料に充当するという一方で、仮に教室の本数が半減したとしても赤字にはならない提案としている。

ルネサンスは、全国で健康づくりを展開している。施設運営に加えて、地域に出て行き、地元企業も巻き込みながら、地域全体の活性化、健康づくりまで担っていききたい。

また、日本施設協会は、現在、戸畑図書館の指定管理事業者であるため、運動無関心層も含めた、地域の活性化が当グループで出来ると考えている。図書館とスポーツセンターは、道を挟んで目の前にあるが、現在は、有機的な連携が出来ていない。お互いの無関心層を結びつけ、人や地域をつなげるハブ的な役割を担いたい。

(構成員) 図書館との連携について具体的な内容を教えてほしい。また、教室数も増えるなら、集客のためには広報が大事になってくる。広報担当者も配置されるということで、かなり情報発信に期待できるが、SNSはどのツールを使っていく予定なのか。

(応募団体) 連携内容について、例えば戸畑図書館では、「私の推し本」という司書のおすすめの本が掲出されているが、これのスポーツ版として、トップアスリート、オリンピック選手が読んでいる本などを紹介して、スポーツと文化を融合することができる。

また、子供向けのお祭りの催しが公共施設では多いが、相互にイベントや講座の告知等を行うことで連携を図れると考えている。

情報発信については、もちろん拡張性の高いホームページを作成し発信していく。ただし、ホームページは見に来る人にしか情報が伝わらないため、基本的にはインスタグラムでの発信を考えている。

ただ発信するだけでなく、インスタグラム内でのコミュニケーションも非常に重要なので、広報担当者と連携して進めていく。なお、紙による情報発信も実施していく。

(構成員) 人員配置計画表では、日本施設協会に該当する方が計上されていないように見えるため、内容を教えてほしい。

(応募団体) 代表企業であるルネサンスが運営全般を、維持管理分野を日本施設協会が担当し、しっかりとリスクと業務を分けている。施設内には基本的にルネサンスのスタッフが常駐する。

(構成員) そうすると、共同事業体のため、両者は適正な関係性で、人件費の支出等でも、適切に行われるという認識でよろしいか。

(応募団体) そのとおり。今回についてはしっかりと業務を切って、指揮命令系統は会社毎とする。

(構成員) 維持管理業務の責任者は、日本施設協会が担われるとのことだが、現行の施設維持管理上の課題はどこにあって、どのように改善できると検討されているか。

(応募団体) 故障修繕の場合は、そのための予算があるが、空調の効きが悪いが故障はしてない等、利用者のサービス向上のための予算は、既存の予算内でどう行っていくかという課題がある。そこは、市に利用者の声を届けて、市と連携しながら、利用者サービスを検討していきたい。

(構成員) 全国的に少子化以上にスポーツ少年団や部活動離れが進んでいる中で子供のスポーツ環境をどう考えるか。教室等では何か考慮したうえでプログラム等を決めているのか。

(応募団体) 少子化の影響もあるが、そもそも子供が参加できる教室が少ないので、まずはベースアップのため、試しにいろいろな教室に触れる機会を作って、ニーズのある教室を増やしていく計画をしている。提案の中には、スポーツチャンバラ等もあり、まずは体を動かすということに重点を置いて、そこから様々なスポーツに導きたい。

- 応募団体（戸畑スポーツ文化ランドデザイン）退出後に各構成員が採点
- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表
- 審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定
- 審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定
- 審査項目「効率性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

○ 審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

○ 事務局は合計得点を発表し、検討会としての検討結果（総合的な所見）について協議

（構成員） 両者とも甲乙つけがたかった。戸畑スポーツ文化グランドデザインの方が、施設で求められているものをマーケティングの視点で提案されていた。また、SDGsと指定管理を一体化させた提案になっていた。

（構成員） 戸畑スポーツコミュニティ共同事業体は、これまでの実績から管理運営の信頼度が高い。戸畑スポーツ文化グランドデザインは、新しく魅力的な内容が多かった。さらに情報発信もしっかりしようとしており、未利用者を誘い込もうと工夫されていた。また、図書館との連携も期待できたことから、高く評価した。

（構成員） 戸畑スポーツコミュニティ共同事業体は、しっかりと現状認識ができていて、具体的で実現性の高い提案であった。もう一つ新たに生み出すような提案がほしかったところではあるが、提案としては、非常に良い提案だった。

戸畑スポーツ文化グランドデザインは、代表企業の圧倒的なスポーツ分野のノウハウが活かされた意欲的な提案となっていて、効果的だと思われるものが多かった。両者ともに甲乙つけがたかった。

（構成員） 戸畑スポーツコミュニティ共同事業体は、これまで真面目に管理しているということが感じられた。戸畑スポーツ文化グランドデザインの方が指定管理料は高かったが、施設を目一杯に使う発想が良かった。両者ともに甲乙つけがたかった。

（構成員） 戸畑スポーツ文化グランドデザインの提案書は標準化されているものではないかとの印象であったが、ヒアリングにより意欲的な提案であり、現状もよく把握していることが分かり、面白味があった。戸畑スポーツコミュニティ共同事業体の提案が悪いということは全くない。

○ 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。